

老健施設におけるリスクマネジメントに関する取り組み

介護老人保健施設リスクマネジャー資格認定制度

老健施設を取り巻くリスク(転倒・転落による事故、施設内感染、個人情報保護、職員間のトラブル、地域との連携ミス、自然災害など)を包括的に把握し、事後対応だけでなく、事前リスクも視野に入れて、現場の中心となってリスクマネジメントを行う人材を養成する制度。

リスクマネジャー養成講座の受講

3日間×2回(期・ 期) / 年 **約33時間**のカリキュラム (講義及び演習)

受講要件: ・会員及び会員施設(の法人)の職員で管理的役職者であり会員推薦のある者
・支部事務局の職員で支部長の推薦のある者



資格試験申込、インターネット模擬試験



(e-learning)

認定資格試験、合格発表



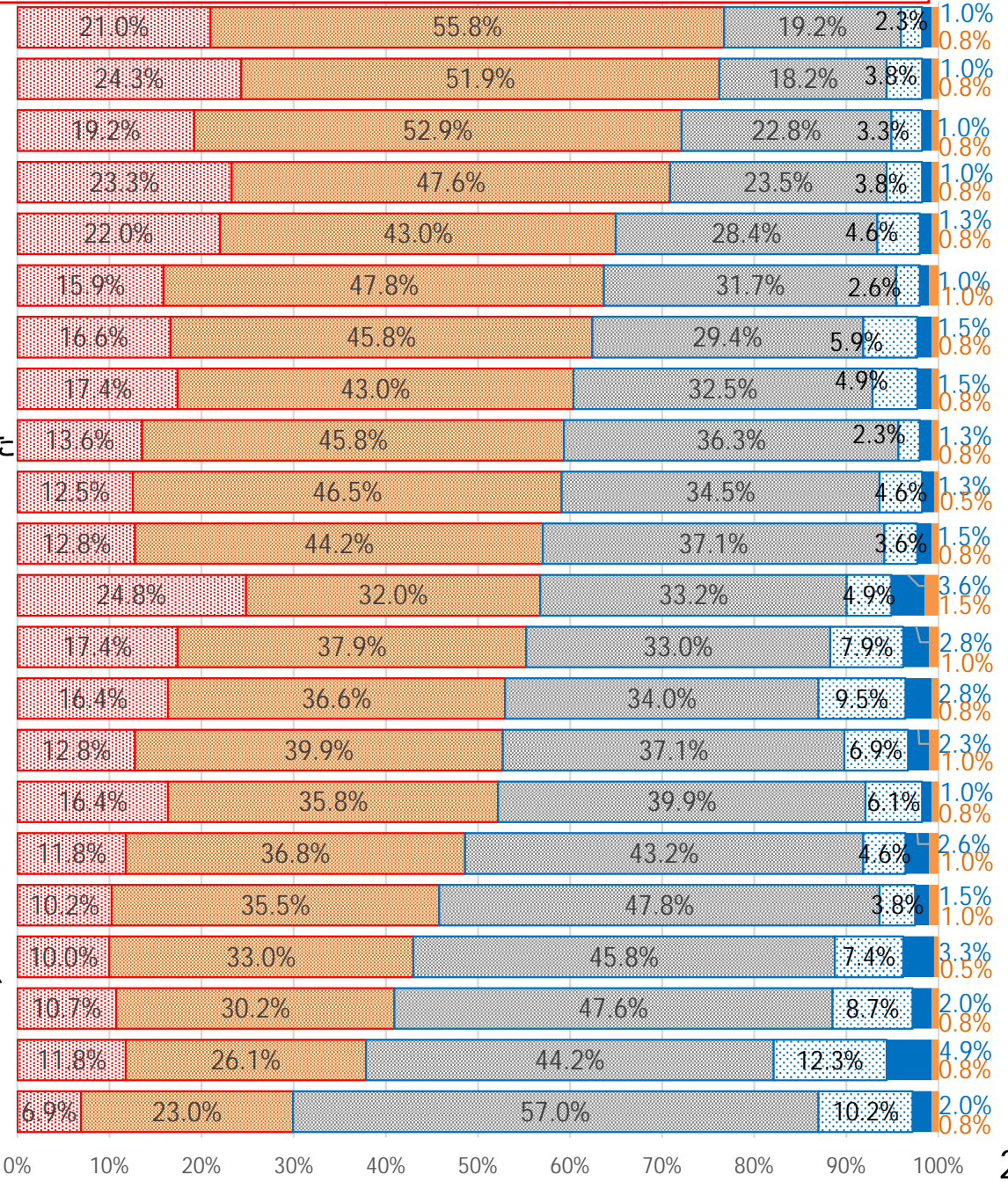
資格の更新 (5年ごと)

平成20年度から現在まで、**約2300名**のリスクマネジャーが活躍中!

老健施設におけるリスクマネジャー有資格者配置の効果



- ・事故やリスクについて、前向きに取り組むようになった
- ・ヒヤリハット、事故報告への対応や仕組むが整備（強化）された
- ・ヒヤリハット、事故報告に対する職員全体の意識・知識が高まった
- ・ヒヤリハット、事故の原因分析が以前より行われるようになった
- ・施設におけるリスクの責任体制が明確になった
- ・事故発生時の部門間の連携・調整が素早くなった
- ・ヒヤリハット、事故報告、感染症以外のリスクへの対応（苦情や個人情報保護等）についても、仕組みが整備（強化）された
- ・施設におけるリスクに関する情報が一元的に集約できるようになった
- ・施設におけるリスク全般についての対応が、より効果的・実用的になった
- ・ヒヤリハット、事故報告、感染症以外のリスクについても職員全体の意識・知識が高まった
- ・職員、各部門からの相談に適切に応じる事ができるようになった
- ・身体拘束廃止が進んだ
- ・感染症への対応や仕組みが整備（強化）された
- ・感染症に対する職員全体の意識・知識が高まった
- ・行政や外部機関等が発信するリスクについての情報を収集や周知をするようになった
- ・施設におけるリスクに関する研修が増えた、強化された
- ・利用者等のクレームに適切に応じる事ができるようになった
- ・平時より、部門間の連携・調整が素早くなった
- ・職員の防災についての意識が高まった
- ・介護事故等が起きた際に、当事者の職員への精神的ケア等のサポートが以前より行われるようになった
- ・災害のための備蓄が増えた
- ・利用者やご家族様からの苦情が少なくなった



(出典：2019年介護老人保健施設におけるリスクマネジメントに関する実態調査)